

July 30, 2019

【前日の為替概況】ポンド、合意なき離脱懸念で全面安、対ドル 1.2212ドル、対円 132.86円

29日のニューヨーク外国為替市場でポンドは全面安となった。ジョンソン英首相や主要閣僚から欧州連合（EU）離脱に関し、強硬的な発言が相次いだことを受けて、10月末の「合意なき離脱」への警戒感が高まりポンド売りが膨らんだ。ポンドドルは1.2212ドルと2017年3月以来約2年4カ月ぶりの安値を付けたほか、ユーロポンドは0.9123ポンドと17年9月以来約1年10カ月ぶりのポンド安水準を付けた。ポンド円も132.86円と1月3日のフラッシュクラッシュ以来の安値を更新した。市場関係者からは「オプション市場でもポンドプット（ポンドを売る権利）が買われ、投資家は合意なき離脱への備えを加速させている」との声が聞かれた。

ドル円は小幅ながら3日続伸。終値は108.78円と前営業日NY終値（108.68円）と比べて10銭程度のドル高水準だった。ポンドドルの下落に伴う円売り・ドル買いが強まると、前週末の高値108.83円を上抜けてストップロスを誘発し、108.90円と10日以来の高値を付けた。

ユーロ円は反発。終値は121.21円と前日NY終値（120.95円）と比べて26銭程度のユーロ高水準。しばらくは120円台後半でもみ合いが続いていたが、121円台に観測されていたストップロスの買いを付けると、一時121.30円まで上値を伸ばした。市場では「月末が近づく中、ロンドン16時（日本時間24時）のフィクシングに絡んだ円売り・ユーロ買いがのフローが出た」との指摘があった。

ユーロドルは反発。終値は1.1145ドルと前営業日NY終値（1.1128ドル）と比べて0.0017ドル程度のユーロ高水準だった。ポンドドルの下落につれたユーロ売り・ドル買いが先行し、21時過ぎに一時1.1113ドルと日通し安値を付けたものの、前週末の安値1.1112ドルが目先サポートとして働く徐々に買い戻しが優勢に。ユーロ円やユーロポンドなどの上昇につれた買いも入り、4時30分過ぎに一時1.1151ドルと日通し高値を付けた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日銀のフォワードガイダンス強化に要注目か

本日の東京市場のドル円は、本日から明日にかけて開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）や米中通商協議を控えて動きづらい展開の中、日銀金融政策決定会合でフォワードガイダンスの強化が打ち出されるか否かに注目する展開が予想される。

ドル円の注文状況は、上値には、108.90円と109.00円にドル売りオーダー、それぞれ超えるとストップロス買い、109.10-20円にも断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、108.20-40円に断続的にドル買いオーダーが控えている。

ドル円の一目均衡表のテクニカル分析では、均衡表と遅行スパンは好転しており、雲（下限108.24円・上限109.59円）を上抜けた場合、三役好転の強い買いシグナルが点灯する。

また、7月10日の高値108.99円がネック・ラインとなっており、上抜けた場合は、ダブル・ボトム（106.78円・107.21円）が完成することで、108.99円の攻防には要注目か。

米連邦公開市場委員会（FOMC）では0.25%の予防的利下げが確実視されており、先日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、フォワードガイダンスが変更され、新たな資産買い入れの規模と構成、預金金利の階層化が示唆された。

日銀金融政策決定会合では、4月に明確化されたフォワードガイダンス「当分の間、少なくとも2020年春ごろまで現在の極めて低い長短金利の水準を維持する」が、10月の消費増税などを視野に、「2020年末」あたりまで延長される可能性が警戒されている。

日銀金融政策決定会合でフォワードガイダンスが強化された場合、ドル円や日経平均株価の下支え要因となる。

昨日は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）（※2018年度末運用資産159兆円）が、外国債券（27.8兆円）のヘッジに乗り出す、と一部の報道が円買い要因になったが、本日も関連ヘッドラインに要警戒か。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 6月完全失業率（予想：2.4%）
- 08:30 ◎ 6月有効求人倍率（予想：1.62倍）
- 08:50 ◎ 6月鉱工業生産速報（予想：前月比▲1.7%/前年比▲2.0%）
- 未定 ☆ 日銀金融政策決定会合（終了後、決定内容発表、予想：当座預金金利▲0.10%で据え置き）
- 未定 ◎ 経済・物価情勢の展望（7月、基本的見解）
- 15:30 ☆ 黒田東彦日銀総裁、定例記者会見

<海外>

- 07:45 ◎ 6月NZ住宅建設許可件数
- 10:30 ◎ 6月豪住宅建設許可件数（予想：前月比0.2%/前年同月比▲24.3%）
- 14:30 ◎ 4-6月期仏国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比0.3%）
- 15:00 ◇ 8月独消費者信頼感指数（Gfk調査、予想：9.7）
- 15:45 ◇ 6月仏財政収支
- 15:45 ◇ 6月仏消費支出（予想：前月比0.2%）
- 16:00 ◇ 7月スイスKOF景気先行指数（予想：93.0）
- 16:30 ◎ 4-6月期スウェーデンGDP（予想：前期比0.3%）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲6.6）
- 18:00 ◎ 7月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：102.6）
- 21:00 ◎ 7月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.3%/前年比1.5%）
- 21:30 ◎ 6月米個人消費支出（PCE、予想：前月比0.3%）
 - ◎ 6月米個人所得（予想：前月比0.4%）
 - ☆ 6月米PCEデフレーター（予想：前年比1.5%）
 - ☆ 6月米PCEコアデフレーター（予想：前月比0.2%/前年比1.7%）
- 22:00 ◎ 5月米ケース・シラー住宅価格指数（予想：前年比2.4%）
- 23:00 ◎ 6月米住宅販売保留指数（仮契約住宅販売指数、予想：前月比0.5%/前年比0.7%）
- 23:00 ◎ 7月米消費者信頼感指数（予想：125.0）
- 米中閣僚級貿易協議（上海、31日まで）
- 米連邦公開市場委員会（FOMC）1日目
- 米大統領選に向けた第2回民主党討論会（デトロイト、31日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

29 日 16:16 ラーブ英外相

「欧州連合 (EU) が意固地になっている」

「我々は EU と合意したい」

「EU が意固地のままでいるならば、我々は合意なき離脱にむけて準備をしなくてはならない」

29 日 19:30 欧州委員会報道官

「EU は合意なきブレグジットの用意がある」

「秩序あるブレグジットがベストな結果」

29 日 21:55 ジョンソン英首相

「常識的に、我々は合意に達することが出来る」

「我々は EU と新しい自由貿易協定が必要」

「英国はアイルランド政府とブレグジットについて今日話し合う」

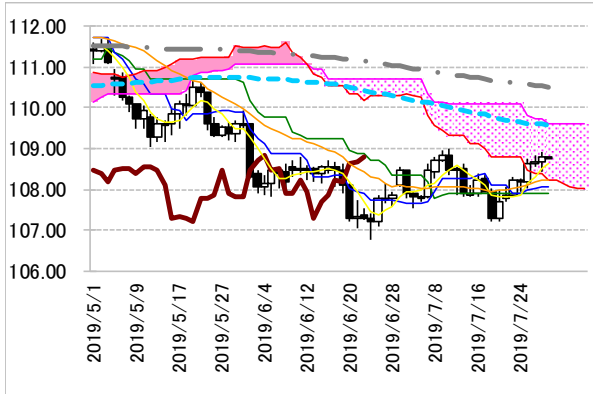
「10 月 31 日に合意できるか否かわかる」

29 日 22:25 トランプ米大統領

「小幅な利下げでは十分ではない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

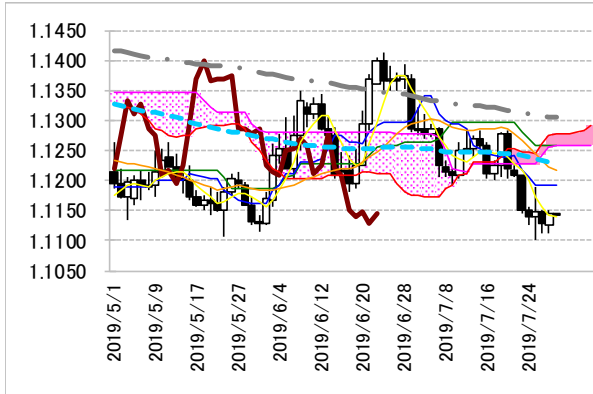


<ドル円=雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。ネック・ライン 108.99円を上抜けた場合、ダブル・ボトム (106.78円・107.21円) が完成する。

本日は、雲の下限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.93(5/30 高値)
レジスタンス 1	109.59(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	108.78
サポート 1	108.24(日足一目均衡表・雲の下限)

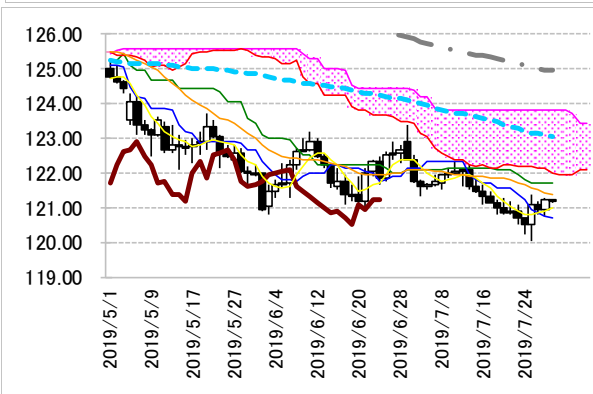


<ユーロドル=7/25 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線により反発の可能性が示唆されている。

本日は、7月25日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1192(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1145
サポート 1	1.1102(7/25 安値)

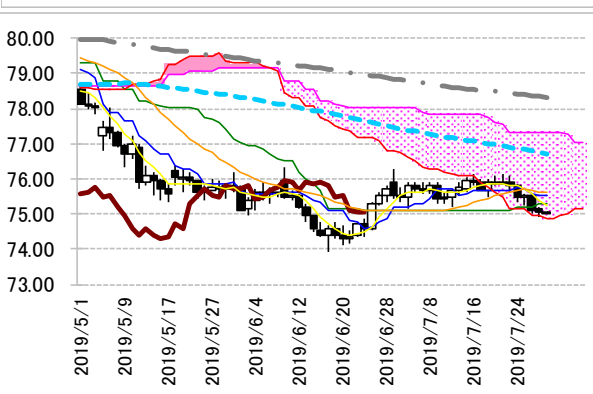


<ユーロ円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での抱き線により反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	121.71(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	121.21
サポート 1	120.72(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移しているものの、一目・転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。7月22日の寄り引同事線により、下落トレンドの可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。雲の下限を下抜けた場合は、追撃売り。

レジスタンス 1	75.53(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	75.08
サポート 1	74.87(日足一目均衡表・雲の下限)

